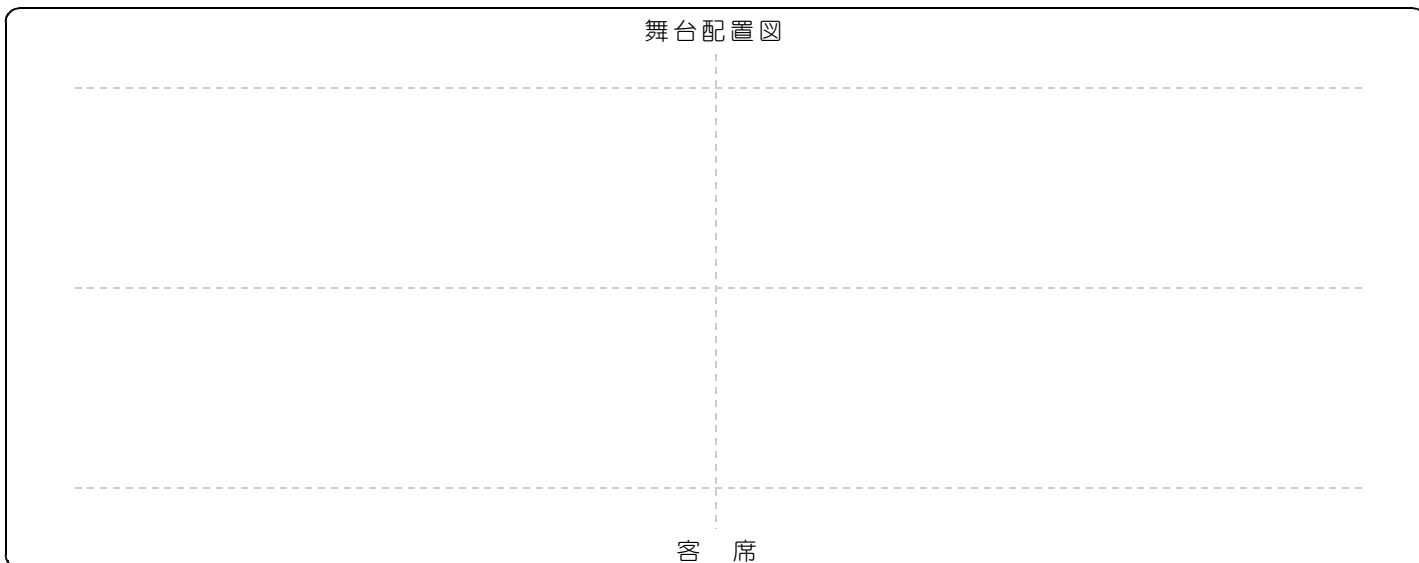


No.	古典的嬉遊曲	演奏者数	演奏時間
-----	--------	------	------

舞台配置図



客席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：本手								替手			三絃
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	
本手				C					C					
	D	G	A	A#	D	D#	G	A	A#	D	D#	G	A	
替手	本手と同調絃													転調なし

三絃	D	A	D											二上り
----	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1968年 委嘱者 一 構成 箏 1・11・三弦・尺八 時間 8分 出版楽譜 前川出版

解説 この曲は古典の手法を基に箏本手の独奏または、替手との合奏、それに三絃、尺八を加えての合奏と、どの楽器との組合せも楽しめる様に書かれており、従来の段物風な性格を持たせてあります。曲の初めは本手のゆっくりした独奏で初まり、この曲全体を通しての主題を奏し合奏の部分から徐々にテンポの盛り上がりを見せていき、やがて最高潮に達し急激な静まりをとりもどして終わります。1968年作曲。[作曲者] 収録媒体 一